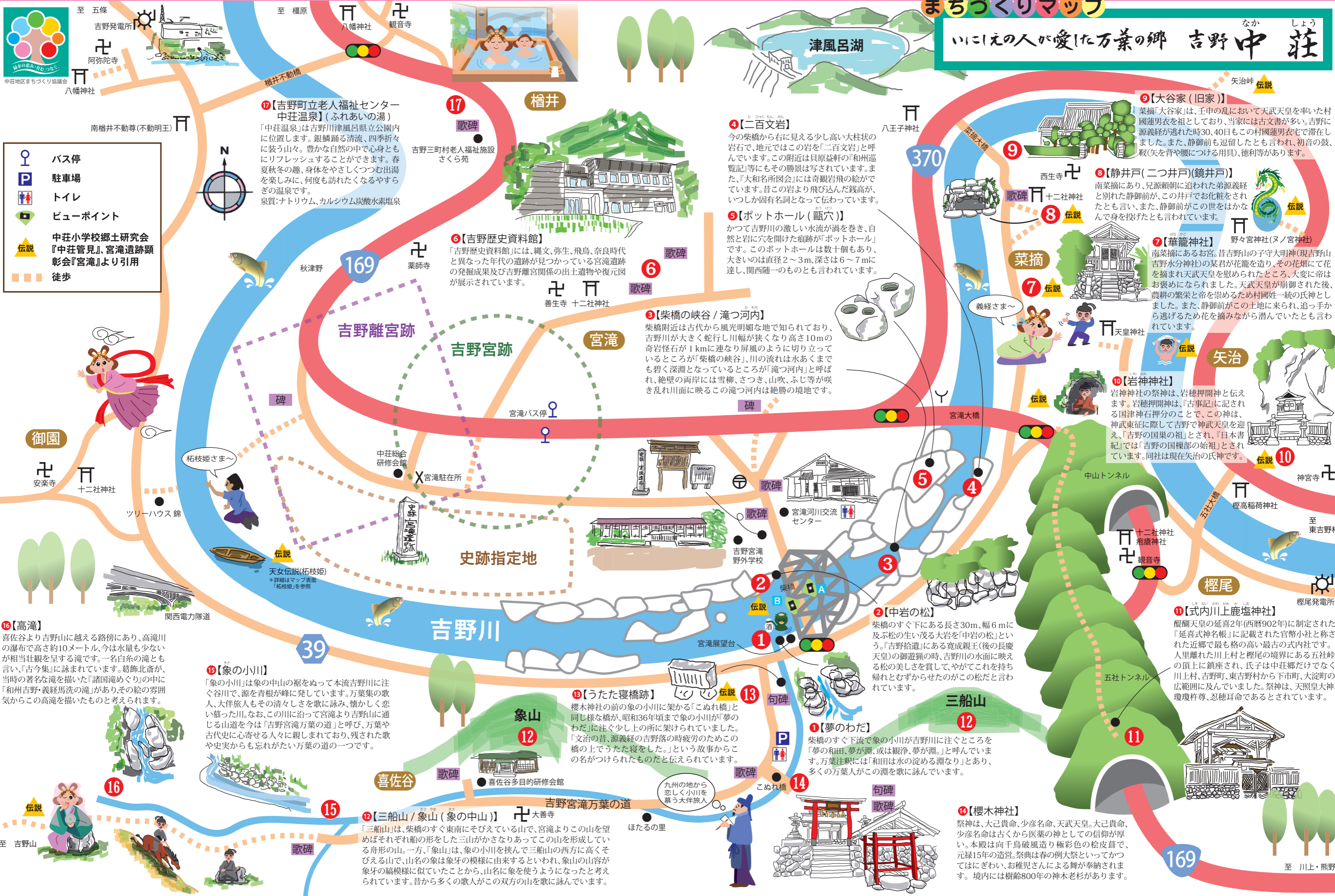




まちづくりマップ

なかにしょう いこえの人が愛した万葉の郷 吉野中庄

- バス停
 - 駐車場
 - トイレ
 - ビューポイント
 - 伝説
 - 徒歩
- 中庄小学校郷土研究会『中庄管見』、宮滝遺跡顕彰会『宮滝』より引用



16【高滝】
喜佐谷より吉野山に越える路傍にあり、高滝川の瀑布で高さ約10メートル、今は水量も少ないが相当壮観を呈する滝です。一名白糸の滝とも言われ、『古今集』に詠まれています。葛飾北斎が、当時の著名な滝を描いた『諸国滝めぐり』の中に「和州吉野・義経馬洗の滝」があり、その絵の雰囲気からこの高滝を描いたものと考えられます。

16
伝説
至 吉野山

19【象の小川】
「象の小川」は象の中山の裾をぬって本流吉野川に注ぐ谷川で、源を青根が峰に発しています。万葉集の歌人、大伴旅人もその清々しさを歌に詠み、懐かしく恋慕った川。なお、この川に沿って宮滝より吉野山に通じる山道は今「吉野宮滝万葉の道」と呼ばれ、万葉や古代史に心寄せる人々に親しまれており、残された歌や史実からも忘れがたい万葉の道の一つです。

15
歌碑

12【三船山/象山(象の中山)】
「三船山」は、柴橋のすぐ東南にそびえている山で、宮滝よりこの山を望めばそれぞれ船の形をした三山がかさなりあってこの山を形成している。一方、「象山」は、象の小川を挟んで三船山の西方に高くそびえる山で、山名の象は象牙の模様由来するといわれ、象山の山容が象牙の縞模様似ていたことから、山名に象を使うようになったと考えられています。昔から多くの歌人がこの双方の山を歌に詠んでいます。

12
喜佐谷
●喜佐谷多目的研修会館

13【うたた寝橋跡】
櫻木神社の前の象の小川に架かる「こぬれ橋」と同じ様な橋が、昭和36年頃まで象の小川が「夢のわた」に注ぐ少し上の所に架けられていました。「文治の昔、源義経の吉野落の時疲労のためこの橋の上でうたた寝をした。」という故事からこの名がつけられたのだと伝えられています。

14
こぬれ橋
九州の地から恋しく小川を慕う大伴旅人

14【櫻木神社】
祭神は、大己貴命、少彦名命、天武天皇。大己貴命、少彦名命は古くから医業の神としての信仰が厚い。本殿は向千鳥破風造り極彩色の檜皮葺で、元禄15年の造営。祭典は春の例大祭といっけつてはにぎわい、お稚児さんによる舞が奉納されます。境内には樹齢800年の神木老杉があります。

1【夢のわた】
柴橋のすぐ下流で象の小川が吉野川に注ぐところを「夢の和田、夢が淵、或は観浄、夢が淵。」と呼んでいます。万葉注釈には「和田は水の淀める淵なり」とあり、多くの万葉人がこの淵を歌に詠んでいます。

2【中岩の松】
柴橋のすぐ下にある長さ30m、幅6mに及ぶ松の生い茂る大岩を「中岩の松」という。『吉野拾遺』にある寛成親王(後の長慶天皇)の御遊覧の時、吉野川の水面に映える松の美しさを賞して、やがてこれを持ち帰れとむずからせたのがこの松だと言われています。

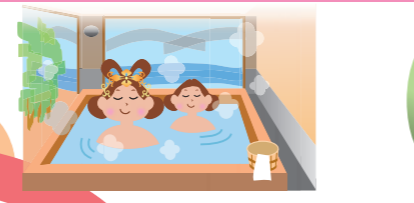
3【柴橋の峡谷/滝つ河内】
柴橋付近は古代から風光明媚な地で知られており、吉野川が大きく蛇行し川幅が狭くなり高さ10mの奇岩怪石が1kmに連なり屏風のように切り立っているところが「柴橋の峡谷」、川の流れば水あくまでも碧く深淵となっているところが「滝つ河内」と呼ばれ、絶壁の両岸には雪柳、さつき、山吹、ふじ等が咲き乱れ川面に映るこの滝つ河内は絶景の境地です。

4【二百文岩】
今の柴橋から右に見える少し高い大柱状の岩石で、地元ではこの岩を「二百文岩」と呼んでいます。この付近は貝原益軒の『和州巡覧記』等にもその勝景は写されています。また、『大和名所図会』には奇観岩飛の絵が描かれています。昔この岩より飛び込んだ銭高が、いつしか固有名詞となって伝わっています。

5【ポットホール(罅穴)】
かつて吉野川の激しい水流が渦を巻き、自然と岩に穴を開けた痕跡が「ポットホール」です。このポットホールは数十個もあり、大きいのは直径2~3m、深さは6~7mに達し、関西随一のものとも言われています。

6【吉野歴史資料館】
「吉野歴史資料館」には、縄文、弥生、飛鳥、奈良時代と異なった年代の遺跡が見つかった宮滝遺跡の発掘成果及び吉野離宮関係の出土遺物や復元図が展示されています。

17【吉野町立老人福祉センター中庄温泉】(ふれあいの湯)
「中庄温泉」は吉野川津風呂県立公園内に位置します。銀鱗踊る清流、四季折々に装う山々。豊かな自然の中で心身ともにリフレッシュすることができます。春夏秋冬の趣、身体をやさしくつつむ出湯を楽しみに、何度も訪れたいくなるやささぎの温泉です。泉質:ナトリウム、カルシウム炭酸水素塩泉



9【大谷家(旧家)】
菜摘「大谷家」は、壬申の乱において天武天皇を率いた村國連男衣を祖としており、当家には古文書が多い。吉野に源義経が逃れた時30、40日この村國連男衣宅で滞在しました。また、静御前も逗留したとも言われ、初音の鼓、杖(杖を背や腰につける用具)、徳利等があります。

8【静井戸(二つ井戸)(鏡井戸)】
南菜摘にあり、兄源頼朝に追われた弟源義経と別れた静御前が、この井戸でお化粧をされたとも言われ、また、静御前がこの世をはかんで身を投げたとも言われています。

7【華籠神社】
南菜摘にあるお宮。昔吉野山の子守大明神(現吉野山吉野水分神社)の某君が花籠を造り、その花籠にて花を摘まれ天武天皇を慰められたところ、大変に帝はお褒めになりました。天武天皇が崩御された後、農耕の繁栄と帝を崇めるため村國姓一統の氏神となりました。また、静御前がこの土地に來られ、追っ手から逃げるため花を摘みながら潜んでいたとも言われています。

10【岩神神社】
岩神神社の祭神は、岩穂押開神と伝えられます。岩穂押開神は、『古事記』に記される国津神石押分のことで、この神は、神武東征に際して吉野で神武天皇を迎え、「吉野の国菓の祖」とされ、『日本書紀』では「吉野の国菓部の始祖」とされています。同社は現在矢治の氏神です。

11【式内川上鹿塩神社】
醍醐天皇の延喜2年(西暦902年)に制定された『延喜式神名帳』に記載された官幣小社と称された近郷で最も格の高い最古の式内社です。人里離れた川上村と檜尾の境界にある五社峠の頂上に鎮座され、氏子は中庄郷だけでなく川上村、吉野町、東吉野村から下市町、大淀町の広範囲に及んでいました。祭神は、天照皇大神、瓊瓊杵尊、忍穂耳命であるとされています。

12
中山トンネル
五社トンネル

9
矢治峠

8
伝説

7
伝説

10
伝説

11
伝説

12
伝説

13
句碑

14
句碑

169
至 川上・熊野